

特集

桂川中学校吹奏楽部

響け！ 桂川の ハーモニー

4月。桂川中学校吹奏楽部（以下「桂中吹奏楽部」）を訪ねた。フルート、トランペット、クラリネット：多種多様な楽器の練習を行っている部員たちに、部活動の目標を聞くと、口を揃えてこう答えた。

「コンクールで金賞をとること」

桂中吹奏楽部が最後に金賞を獲得したのは14年前の平成12年にまでさかのぼる。

目指すは金賞。

今年こそは、と意気込む彼らの挑戦を追った。



▲部室である音楽室に掲げられた桂中吹奏楽部の部訓「礼節・努力・理想」。

「体育会系文化部」
桂中吹奏楽部へようこそ！

まだ肌寒い4月上旬の朝7時30分。桂川中学校運動場に、息を

切らせながら走る中学生たちの姿があった。陸上部や野球部の朝練習の光景かと思いきや、そうではない。彼らは、桂川中学校吹奏楽部の部員たちだ。

「楽器やってるから文科系っぽいんですけど、吹奏楽部は『体育会系文化部』ですよ」と笑顔で話すのは桂中吹奏楽部の坂本都咲部長。早朝練習で、ランニングのほか腹筋や腕立て伏せを行う

様子は、確かに「体育会系」と言われても違和感がない。

*

練習は月曜日以外は毎日行われ、休日の練習時間は8時間を超えることもある。個人練習に多くの時間が割かれ、一人ひとりが担当楽器の技術を磨き、イベントやコンクールで演奏する曲の練習をひたすらに積み重ねる。

吹奏楽部顧問の藤井健次先生は、「自分の演奏ができないと、合奏のときに他の部員にも迷惑がかかります。個人練習を繰り返すということは、自分が担当する部分に責任を持つということでもあります」と、個人練習の重要性について話す。

部が重んじる規律と礼節

自らを「体育会系文化部」と呼ぶ桂中吹奏楽部。そう呼ぶ要因の一つには、彼らの規律と礼節を重んじる姿勢がある。それは普段の部員の行動に表れており、あいさつや「はい！」

という返事の活発さ、時間励行や他者への言葉づかいなど枚挙にいとまがない。その姿勢の理由を、顧問の一人である松宮央先生が答えてくれた。

「吹奏楽は規律や礼節が特に重視される部活です。なぜか。吹奏楽は、参